

## 第4回議事録（要旨） 日時：令和3年1月28日 10:00～11:30

### 「木の文化都市・金沢」の継承と創出に向けての提言書（案）について

#### ○序文について

- ・「序．提言にあたって」の「2．金沢が「木の文化都市」に取り組む意義について」は、都市の不燃化や効率化が木の文化を守る上で大きなハードルであったことは分かるが、肝心の金沢の「木の文化」がどのようなものであるかが記載されていない。「木の文化」についての記載を追加するか、冒頭の「はじめに」に含めて表現していただきたい。

⇒「はじめに」の中に「木の文化」についての説明を記載する。

- ・「2．金沢が「木の文化都市」に取り組む意義について」に、継承していきたいものが何であるかの記載がない。①金沢は昔から守ってきた木の文化がある、②しかし不燃化や効率化などが進む中で「木の文化」が途絶えそうである、そこで③もう一度価値を見直して新しい価値観を創出していく、という記載が必要ではないか。

⇒「2．金沢が「木の文化都市」に取り組む意義について」の中に意見のあった内容の記載を加える。

#### ○柱1の名称について

- ・柱1について、「発進」という言葉では、これまでの歴史的積み重ねがない状態でスタートするイメージを持ってしまう。これまでの歴史的資源を深めたり、新しいものを取り入れたりして、アップグレードするという意味の言葉に変更してはどうか。
- ・柱1の名称は、『「木の文化都市」の継承と創出』で良いのではないか。

⇒柱1の名称は、『「木の文化都市」の継承と創出』とする。

#### ○柱2の名称と位置付けについて

- ・「木の文化に資する研究体制の構築」は柱としては2番目の位置付けでよいのか。市民が目にする際に、2番目の柱が「研究体制」であると、「木の文化都市」の主眼が研究することにあるように受け取るのではないか。
- ・火災をはじめとする木造建築の防災に対応していくためには、市民の力が不可欠である。「防災対策」では研究者が研究してくれるという印象を受けてしまうのではないか。
- ・「研究体制の構築」と柱に打ち出されると、市民が親しめるものではなくなる。柱の内容には、様々な主体が関わる先進的な体制を作ることが記載されているため、柱の名称を変更する必要があるのではないか。

- ・閉じた体制で推進するのではなく、広く意見を収集し連携しながら進めていく推進体制を「金沢型」と呼ぶことが伝わるように、推進体制の前に「金沢型」と記載するべきでは。  
⇒柱2を「木の文化都市を支える金沢型推進体制の構築」に変更し、6番目の柱に位置付けることとする。

#### ○柱2の内容について

- ・柱の表現の変更に伴い、＜取り組みの方針＞は、研究する分野ではなく、産学官が連携することや金銭的技術的支援を行うこと、コーディネートをするなど、推進組織がどのようなことをしていくのかを記載すると良いのではないか。その中で、タイトルから「研究」という言葉を削除する場合は、推進組織が行うこととして、明記する必要があるのではないか。

⇒＜取り組みの方針＞は、柱2の名称に合わせた内容に記載を変更する。また、本文中に「研究」の表現を明記する。

#### ○柱6 SDG s との関係の整理について

- ・SDG s との関係について、「木の文化都市」の取組と金沢SDG s の関係を、6ページの図のように詳細に整理する必要はないのではないか。
- ・6ページの図は内部でSDG s との関係を整理するために役立つが、市民がこの図を見ると混乱するように思う。金沢市の「木の文化」がこれまで積み重ねてきたことが既にSDG s であること、そしてSDG s の視点から足りていないことを今後「創出」の中で進めていくことの2つの考え方が示されていれば、金沢SDG s との詳細な関係の整理をする必要はないのではないか。

⇒6ページのSDG s の図は、提言書から削除する。

#### ○全体について

- ・これから広く発信していくためには「継承と創出」か「創出と継承」のどちらで進めるか、統一すると良いのではないか。  
⇒金沢市でこれまで使われてきた、「伝統と創造」「保存と開発」にならい、「継承と創出」で統一する。